

中国における修士課程在学者の学習・生活行動

—学術学位と専門職学位の比較—

韓 冀 娜

課題設定

本稿は、学術学位課程の学生と専門職学位課程の学生の学習・生活行動を比較し、そうした学習・生活行動を規定する要因を明らかにすることを目的とする。それに加え、異なる進学目的意識を持つ学生が大学院生活においてどのような違いが生じているのかを明らかにする試みを行う。

中国では1980年代初めに基本的な大学院教育の枠組みができあがり、その後も整備・拡充が続けられている。当時、文化大革命に破壊された教育や文化などを迅速に回復させるという社会的需要から、学位は全て学術学位で、大学院教育は高等教育機関の教員及び科学研究に携える志向を持つ者の養成を主な目的としていた。しかし、中国における計画経済体制から市場経済体制への全面的移行に伴い、高度な実践的応用的人材を大量に養成する要求が高まり、高等教育においては、学術研究のほか、実践能力の養成も必要となった。つまり、「大学院生を必要とする部門が高等教育機関や研究機関から産業部門やその他の実務部門へと徐々に変化し、従来の目標や方式で養成された大学院生はそれにうまく適応できない状況が生じてきていた」(楠山, 2002, p. 76)と楠山が指摘している。そこで、1990年、中国国務院学位委員会第9回大会において専門職学位の導入が決められ、翌年から募集を始めた。そして、中国で最初に正式の専門職学位として認められたのは、当会議で導入が決定された「工商管理修士」(MBA)である。その後1992年に建築学専門職学位(建築学修士及び建築学学士)、1995年に「法律修士」専門職学位の設置が決まった。

専門職学位と学術学位の違いとしては、以下の点が挙げられる。まず養成目標に関しては、学術学位は教育と科学研究に携わる人材を養成するのに対し、専門職学位は高いレベルの専門技術をもつ人材を養成する。次に養成方法についても、学術学位は科学研究訓練を重視し、基礎理論と専門知識の習得を強調するのに対し、専門職学位は専門技術職特有の基礎知識を習得する同時に、実力訓練も重視するという違いがある(韓, 2016)。

一方、2009年より中国の大学院教育制度は新たな動向を見せている。それは全日制専門職学位制度の発足である。学部新卒者を募集対象とする専門職大学院は全日制であり、修了する時点には学歴証書と学位証書を同時に授与することが規定され、従来の学歴証書しか授与できない専門職大学院と大きく異なるのである。全日制専門職大学院制度の実施に伴い、2009年専門職学位課程の進学者数は僅か71,388人であり、同年度の大学院進学者総数の449,042人に比べると約1対6であった。ここ

ろが、2013 年になると、専門職学位課程の進学者数は 224,859 人となり、同年度の大学院進学者総数の 4 割以上を占めた⁽³⁾。

しかしながら、募集人数と応募人数が年々増加しているのに対し、全日制専門職大学院制度はその実施と運用のプロセスに問題を抱えている。満（2013）が指摘しているように、全日制専門職大学院制度について、中国教育部が発布した条例や規定などにおいては、その実施プロセスが従来の学術学位課程といかなる相違点を持つのか、具体的な運用プロセスがいかなるものであるのかに関する説明が見当たらない⁽⁴⁾。また、「現行の全日制専門職大学院は、大学院進学者にとって就職難から回避するための 1 つの逃げ道、あるいはこうしたモラトリアム意識を持つ大学生たちにうまく利用された 1 つの受け皿という、ただそれだけの性質を持っていることが指摘できる」⁽⁵⁾（満 前掲，p. 292）と満は述べている。それに、中国における大学院への進学意識について、韓（前掲）も同様な分析結果を提示している。すなわち、大学院教育の拡大とともに、就職に際し、できるだけの高学歴が有利になると考え、それを目的として大学院に入った者が急増しており、なかでもとくに専門職学位課程への進学を大学院進学 of 容易な抜け道として使われることが明らかになった⁽⁶⁾。

上記を踏まえると、国家側として積極的に専門職学位教育を発展させ、高度な実践的応用の人材を養成しようと様々な改革を試みるが、学生側はそれを無視し、ただ学歴のロンダリングで大学院に入ってきたようである。そうだとすると、専門職学位課程の学生は就職や学歴のことだけを考えて大学院で勉強しないのか。もしくは異なる進学目的意識を持つ進学者が大学院で全然違う学校生活をしているのか。

中国では、大学院生の学習生活行動に関する調査研究がまだそれほど蓄積されていないものの、主に 2 つのアプローチによる考察が行われてきた。第 1 に、ストレスと学業怠慢についての分析である。講義中に寝る、授業をサボる、宿題や研究をやらないなどの学業怠慢に対して、性別、専攻、学年から考察した結果、男性より女性、理工系より文系、そして低学年より高学年のほうが学業怠慢をしやすい傾向がある。また、学業怠慢の原因として、将来に対する不安、専攻に関する興味がない、研究がうまく行かない、見込みと実際の結果の乖離などによるストレスを挙げている（胡春宝 2008，王月明 2016，李纳娜 2009）。第 2 に、大学院生の学業参加度の規定要因に関する分析である。仲（2011）や何（2015）は、NSGE⁽⁷⁾ データへの分析により、現在の中国の大学院生の学業参加度が全体的に高くないことを明らかにした上で、それに関する性別や年齢などの属性による違いがなく、むしろ、専攻、養成方式、学習意欲そして学業満足度などから強い影響を受けていることを示している。これらの研究はほとんど学術学位課程の学生に焦点を当てて考察を行っているが、毎年進学者数が増加し続けている専門職学位課程の学生の実態がまだ明確になっていない。

したがって、専門職学位課程の学生の学習生活行動の特徴を明らかにするためには、学術学位課程の学生と比較する必要がある。その際には、学術学位課程の学生と専門職学位課程の学生の学習・生活行動の差異を明確にしたうえで、その規定要因を明らかにする試みを行う。

データ概要

本研究の分析に使用するデータは、筆者が2015年6月から7月にかけて天津市にある3大学の修士課程在学者を対象として実施した質問紙調査の結果である。質問紙の配布数は3大学で合計360票、そのうち320票の有効回答を得ている。有効回答率は88.9%である。そのなか、女性の回答者が146名（46%）と男性の回答者が174名（54%）となっており、学位種類別について見ると、「学術学位」の在学者は77%、「専門職学位」の在学者は23%⁽⁸⁾と比較的バランスのあるサンプルであると言える。

分析結果

1. 学術学位課程と専門職学位課程の学生の学習・生活行動

中国の修士課程在学者の学習・生活行動について、14項の質問を設けて4件法で尋ねた。全体的傾向としては、学術学位課程の学生であれ、専門職学位課程の学生であれ、「専門書の講読」および「自分の研究に結びつける科目の履修」の2項目には、「当てはまる」の選択割合が、「当てはまらない」よりはるかに高くなっている。つまり、修士課程在学者が真面目に授業と学習を取り込んでいる様子を見てとれると言えるだろう。ところが、「授業中よく質問したり、発言したりする」に関しては、「当てはまる」の割合は、「当てはまらない」より平均約10ポイントと低くなっている。その他、「グループディスカッションでよく発言する」にも、「当てはまる」の割合と「当てはまらない」の割合がほぼ半々であり、ほかの授業項目に比べれば、「当てはまる」の割合が決して高いとはいえない。言い換えると、中国の修士課程学生はレポートやノート、専門書の講読などを真面目に取り込んでいるが、授業中で積極的に自分の意見を述べたりしない傾向にある、いわゆる能動的学習が足りないといえるだろう。

表1は、学術学位課程の学生と専門職学位課程の学生の学習・生活行動において、統計的有意差のある4項目を示したものである⁽⁹⁾。まず、「専門書の講読」に着目すると、学術学位課程の学生は、「当

表1 学位種類別—大学院における学習・生活行動（%）

		当てはまる	当てはまらない	合計	(N)	<i>p</i>
専門書の講読	学術学位	81.2	18.8	100.0	(245)	**
	専門職学位	64.4	35.6	100.0	(73)	
科目履修を自分の研究に結びつける	学術学位	79.1	20.9	100.0	(244)	*
	専門職学位	64.4	35.6	100.0	(73)	
レポートとノートを真面目に書く	学術学位	79.6	20.4	100.0	(245)	*
	専門職学位	68.5	31.5	100.0	(73)	

** $p < .01$ * $p < .05$

てはまる」割合が81.2%，専門職学位課程の学生の64.4%より約20ポイントと高くなっている。学術学位課程の学生は専門職学位課程の学生より，専門書を読む傾向にある。また，「自分の研究に結びつける科目の履修」と「レポートとノートを真面目に書く」についても，学術学位課程の学生は専門職学位課程の学生より，「当てはまる」割合がやや高い。一方，「漫画・雑誌を読む」をみると，専門職学位課程の学生のほうは「当てはまる」割合が高くなっている。言い換えると，授業に関する取り組みに関しては，学術学位課程の学生が高い積極性を示しているのに対し，専門職学位課程の学生は漫画や雑誌などに費やす時間がやや多い。

一方，「校内イベントに参加する」，「社会活動に参加する」および「アルバイトする」などの項目については，学位種類にかかわらず，「当てはまる」の割合が4割強に過ぎない。それに対し，「ゲームなどの娯楽をする」と「友人とよく遊びに行く」の2項目は，「当てはまる」の割合が「当てはまらない」の割合をはるかに上回っており，「友人とよく遊びに行く」に関しては，学術学位課程の学生では8割以上，専門職学位課程の学生でも約8割と高い比率である。中国では，校内イベントや実践活動に参加することより，友人や知り合いとの繋がりを重要視している学生の様子がうかがえる。

以上の分析により，中国の大学院修士課程の学生の学習・生活行動を測定する14項目のなか，勉強に関する3項目のみ，学術学位課程の学生と専門職学位課程の学生の間に差がみられたが，それはなぜだろうか，専門職学位課程の学生は本当に勉強しないのか，それを解明するため，まず学術学位課程と専門職学位課程の大学院在籍コースを見てみる。

表2により，学術学位課程の学生はほぼ全員が全日制であるのに対して約3割の専門職学位課程の学生が非全日制，いわゆるパートタイム学生として大学院に通っていることがわかる。そして，勉強に関して，学術学位課程と専門職学位課程の学生の間に統計的有意な差が見られた3項目に，それぞれ「大学院在籍コース」を統制変数として分析を行ったのが表3である。

まず，「専門書の講読」に着眼すると，全日制コースでは，学術学位課程の学生と専門職学位課程の学生の間に統計的有意な差がなく，「当てはまる」の割合がそれぞれ全体の約8割を占めている。一方，全日制コースと非全日制コースを比べてみると，1%の有意水準で有意差があることがわかる。非全日制コースの僅か37.5%の学生が当てはまると選択しているのに対し，全日制コースの学生はその比率が80.6%にのぼり，「当てはまる」と回答した割合は非全日制コースの2倍以上となっている。続いて「科目履修を自分の研究に結びつく」を見ると，全日制に関しては，学術学位課程と専門職学位課程の間には5%水準で有意差がある。しかしながら，全日制コースと非全日制コースの

表2 学位種類別一大学院在籍コース（%）

	全日制	非全日制	合計	(N)	P
学術学位	99.6	0.4	100.0	247	***
専門職学位	68.5	31.5	100.0	73	

*** $p < .001$

表3 学習行動と学位種類と大学院在籍コースのクロス表（％）

		専門書の講読		合計	(N)	p
		当てはまる	当てはまらない			
全日制	学術学位	81.6	18.4	100.0%	(244)	n. s.
	専門職学位	76.0	24.0	100.0%	(50)	
非全日制	学術学位	0.0	100.0	100.0%	(1)	—
	専門職学位	39.1	60.9	100.0%	(23)	
		科目履修を自分の研究に結びつく		合計	(N)	p
		当てはまる	当てはまらない			
全日制	学術学位	79.0	21.0	100.0%	(243)	*
	専門職学位	64.0	36.0	100.0%	(50)	
非全日制	学術学位	100.0	0.0	100.0%	(1)	—
	専門職学位	65.2	34.8	100.0%	(23)	
		レポートとノートを真面目に書く		合計	(N)	p
		当てはまる	当てはまらない			
全日制	学術学位	79.5	20.5	100.0%	(244)	*
	専門職学位	64.0	36.0	100.0%	(50)	
非全日制	学術学位	100.0	0.0	100.0%	(1)	—
	専門職学位	70.3	29.7	100.0%	(23)	

* $p < .05$

間には、統計的有意な差が見られなかった。「レポートとノートを真面目に書く」に関しても、「科目履修を自分の研究に結びつく」と同じような傾向を確認できた。大学院での勉強については、一見、専門職学位課程の学生より学術学位課程の学生のほうはポジティブな姿勢で取り組んでいるが、その違いは、全日制コースと非全日制コースの学生の違いに由来するものであることが明らかになった。

2. 進学目的による学生の学習行動

前節では、学術学位課程の学生と専門職学位課程の学生は、勉強に対する取り組みにおいて違う傾向を見せており、専門職学位課程の学生より、学術学位課程の学生は積極的に勉強に取り組んでいる。なぜ、専門職学位課程の学生は勉強に対してあまり熱心ではないのか。先行研究では、現行の全日制専門職大学院は、その進学者はモラトリアム意識を持つ者が多数であり、彼らにとって大学院進学は就職難から回避するための1つの逃げ道であると指摘している。言い換えると、学術学位課程の学生と比べ、専門職学位課程の学生の進学目的は大きく異なっている。学生のそうした進学目的の差異が彼らの大学院での学習行動に影響を与えているのか、それについて検討する。

中国における大学院への進学目的について、韓（2016）は、専門職学位課程の学生より、学術学位

課程の学生が、「研究職に就くため」、「両親の期待を応えるため」、「よりよい仕事に就くため」といった積極的な進学目的意識⁽¹⁰⁾に関する項目において選択割合が有意に多くなっていることを指摘している。そして、専門職学位課程の学生は「修士学位を取得するため」といった消極的な回答⁽¹¹⁾の比率が圧倒的に高いことを明らかにした⁽¹²⁾。そこで、学生の大学院への進学目的意識と学位種類及び勉強への取り組みを3重クロスとして示したのが表4である。

まず、積極的な進学目的意識に着眼すると、そうした意識をもっている集団において、学位種類間に統計的有意な差はなく、学術学位課程の学生であっても、専門職学位課程の学生であっても、「専門書の講読」、「科目履修を自分の研究に結びつく」及び「レポートとノートを真面目に書く」の3項目ともに当てはまると回答した割合が約全体の8割以上となっている。つまり、積極的な進学目的意識を持つ学生はどちらの学位課程に進学しても、大学院での勉強に真面目に取り組んでいる。

次に、消極的な進学目的意識を見ると、「専門書の講読」のほか、すべての項目において学位種類間の有意差がない。そして、「専門書の講読」に関しては、学術学位課程と専門職学位課程の間には5%水準の有意差があるものの、その差異は縮小している傾向も見えてとれる。

表4 進学目的意識 * 学位種類 * 勉強への取り組み (%)

		専門書の講読		合計	(N)	p
		当てはまる	当てはまらない			
積極的な 進学目的意識	学術学位	88.2	11.8	100.0%	(110)	n.s.
	専門職学位	82.1	17.9	100.0%	(28)	
消極的な 進学目的意識	学術学位	82.1	17.9	100.0%	(106)	*
	専門職学位	64.9	35.1	100.0%	(37)	
		科目履修を自分の研究に結びつく		合計	(N)	p
		当てはまる	当てはまらない			
積極的な 進学目的意識	学術学位	87.2	12.8	100.0%	(109)	n.s.
	専門職学位	78.6	21.4	100.0%	(28)	
消極的な 進学目的意識	学術学位	75.5	24.5	100.0%	(106)	n.s.
	専門職学位	62.2	37.8	100.0%	(37)	
		レポートとノートを真面目に書く		合計	(N)	p
		当てはまる	当てはまらない			
積極的な 進学目的意識	学術学位	87.3	12.7	100.0%	(110)	n.s.
	専門職学位	78.6	21.4	100.0%	(28)	
消極的な 進学目的意識	学術学位	77.4	22.6	100.0%	(103)	n.s.
	専門職学位	59.5	40.5	100.0%	(37)	

* $p < .05$

また、全体的から見れば、約8割を占める学術学位課程の学生は、積極的な進学目的意識を持つ者であれ、消極的な進学目的意識を持つ者であれ、大学院の授業に取り組んでいる。それにひきかえ専門職学位課程の学生は、積極的な進学目的意識を持つ者のほぼ8割が、大学院に入ってから真面目に勉強しているの対し、消極的な進学目的意識を持つ者は約半数が勉学に励んでいるにすぎない。学術学位課程の学生はなぜ必死に勉強に取り組んでいるのかを解明するため、学生のストレス状況を考察する。

表5は、学術学位課程の学生と専門職学位課程の学生が、大学院で感じたストレスについて当てはまる度合いを示したものである。全体傾向として、「就職への不安」および「経済的に厳しい」の2項目には、「当てはまる」の比率が半数近くとなっている。就職を目的として大学院に進学した者が多数であることがすでに先行研究で明らかになっているが、そういう者が修士課程を修了後、望ましいポストに就けるかどうかを心配し続けているようである。大学院の学費をはじめ生活費や交際費など、毎年多くの出費が求められる。加えて、大学院進学の実費を含めると、経済的に恵まれない家庭の学生は、経済面でよりストレスをためているであろう。ところが、学術学位課程の学生より、専門職学位課程の学生のほうは就職や経済に対する不安がやや弱い。前でも述べたように、専門職学位課程の学生は非全日制コースで大学院に通う者の割合が高く、就業者が多い、そういう者は経済面での困窮の度合いは少ないと考えられる。

その他、学術学位課程と専門職学位課程とともに、「学業が重い」と「専攻または履修講義に興味ない」に悩んでいる者は30%~40%がいることも目立つ。大学院進学がブームとなっているなか、大

表5 学位種類別—大学院生活におけるストレス（%）

		当てはまる	当てはまらない	合計	(N)	<i>p</i>
就職への不安	学術学位	68.2	31.8	100.0	(245)	*
	専門職学位	53.4	46.6	100.0	(73)	
経済的に厳しい	学術学位	56.7	43.3	100.0	(245)	<i>n.s.</i>
	専門職学位	47.9	52.1	100.0	(73)	
恋人・家族に抱える問題が多い	学術学位	38.4	61.6	100.0	(245)	<i>n.s.</i>
	専門職学位	41.1	58.9	100.0	(73)	
学業が苦痛	学術学位	38.0	62.0	100.0	(245)	<i>n.s.</i>
	専門職学位	35.6	64.4	100.0	(73)	
専攻または履修講義に興味ない	学術学位	31.8	68.2	100.0	(245)	<i>n.s.</i>
	専門職学位	39.7	60.3	100.0	(73)	
大学院の人間関係が厳しい	学術学位	15.5	84.5	100.0	(245)	<i>n.s.</i>
	専門職学位	13.7	86.3	100.0	(73)	

* $p < .05$

学院生として必要される知識や研究への情熱などを持たず、激しい就職競争から一時的に逃避する学生が増えている。そうした者が消極的な進学目的意識のもとで、大学院の勉強を疎かにしたため、学年があがるにつれ、学習によるストレスもたまっていくようである。

考察と課題

先行研究は、中国大学院生の学業参加度が全体的に高くないと示しているが、本稿では、学術学位課程の学生と専門職学位課程の学生の学習生活行動の考察により、調査対象者の勉強に対する取り組みが低いどころか、非常に積極的な傾向を見せていた。なかでも、とくに学術学位課程の学生が大学院の勉強により一層積極的に取り組んでいることが明らかになった。具体的な分析結果は以下の通りである。

まず、大学院における学習・生活行動を学位種類別に見ると、「専門書の講読」、「科目の履修を自分の研究に結びつく」、「レポートとノートを真面目に書く」といった学習活動に関する3項目には、専門職学位課程の学生より、学術学位課程の学生は当てはまると選択した割合がやや高くなっている。しかし、それ以外の学習・生活行動に関しては、学位種類間に統計的に有意な差が見えず、学術学位の学生であっても、専門職学位の学生であっても、大学院ではほぼ同じように勉強と課外活動に取り組んでいる。ところが、「授業中よく質問したり、発言したりする」や「グループディスカッションでよく発言する」、「校内イベントに参加する」、「社会活動に参加する」などについては、「当てはまる」の割合が比較的に少ないことから、中国の大学院生は積極的に自分の意見を述べたり、課外活動に参加したりすることがなく、いわゆる能動的学習が足りない傾向がうかがえた。

しかしながら、中国の大学院修士課程の学生の学習・生活行動を測定する14項目のなか、勉強に関する3項目だけ、学術学位課程の学生と専門職学位課程の学生の間に違う傾向を見せていた。その原因を明らかにするため、大学院の在籍コース及び大学院への進学目的意識から考察を行った。

学術学位課程の学生は9割以上が全日制であるのに対して、約3割の専門職学位課程の学生が非全日制、いわゆるパートタイムで大学院に通っている。そして、学術学位課程と専門職学位課程の学生の間に統計的有意な差が見られた3項目に、それぞれ「大学院在籍コース」を統制変数として分析を行ったところ、全日制コースには、学術学位課程の学生と専門職学位課程の学生の間に統計的有意な差がなく、もしくは縮小している傾向が見られた。続いて進学目的意識の影響を除去し結果、学位種類間に統計的有意な差がなくなり、学術学位課程の学生であっても、専門職学位課程の学生であっても、大学院の勉強に対して真面目に取り組んでいる。一方、学術学位課程の学生の約8割が、積極的な進学目的意識を持つ者であれ、消極的な進学目的意識を持つ者であれ、大学院の授業に真剣に取り組んでいるのに対し、消極的な進学目的意識を持つ専門職学位課程の学生の約半分は大学院であまり勉強していない。

そして最後に、学術学位課程の学生はなぜ勉強に取り組んでいるのかを解明するため、学生の悩み・ストレス状況を考察したところにより、半数以上の学生がストレスを感じた「就職への不安」およ

び「経済的に厳しい」の2項目に、「当てはまる」と選択した割合が、専門職学位課程より学術学位課程のほうは高くなっていることがわかった。将来に対する不安や、生活上のストレスなどにより、多くの学生が学業怠慢になってしまった（胡 2008, 王 2016, 李 2009）という先行研究の知見と違って、本稿では就職に対する不安、経済的に厳しいなどのストレスを感じた者こそ、よりよい仕事を見つけるために必死に勉強に取り組んでいるエリート大学の学生の姿がうかがえた。

全国大学学生情報相談・就職指導センターが発表した「全国大学卒業生の就職状況」によると、大学院受験者数が100万人を初めて突破した2005年から2009年まで、院生の就職率は下降の一途をたどっている。また、教育部のデータによると、現在、在学者を含め就職を希望している大学院生は全国約160万人いる。そして、毎年、卒業シーズンになると、大学院修士課程修了者約50万人が、この群に新たに加わる。厳しい就職環境のなかで、就職を前提として大学院に入ってきた学生は、まじめに授業に取り組んでいる一方、能動的学習や課外活動をおろかにする傾向も看過できない。

中国では就職する際に、「卒業校の知名度」や「学業成績」などの要素がとりわけ重要視され、社会学習などの実践活動への取り組みはあまり評価されないのが現状である。そのため、学術学課程の学生であれ、専門職学位課程の学生であれ、多くの者が「勉強だけが自分の人生を変えることができる」と信じており、成績を高める学習しか取り込まなく、大学院生としての実践的訓練や研究能力の養成などを軽視している現状が見てとれた。大学院教育は学生の就職達成のためだけ機能しているのではなく、大学院での学習の意味も十分に提示しなければならないと言えよう。

本稿は学術学位と専門職学位の比較をテーマにしているが、専門職学位課程の調査対象者のサンプル数が十分であることとはいえない。また、専門職学位課程のなかでも、全日制専門職大学院教育と非全日制専門職大学院教育があり、その2つの学生タイプの比較を研究に入れ加えて考察することも重要であろう。学術学位と全日制専門職学位との比較により、学位ごとの学部新卒者の大学院教育を受ける際の特徴を明確にすることや、そして、全日制専門職大学院教育と非全日制専門職大学院教育の比較により、専門職学位教育について、学部新卒者と社会人学生の差異を明らかにすることを今後の課題にしておきたい。

注(1) 楠山研, 2002, 「学問学位と専門職学位」, p76.

(2) 同上, p77.

(3) 韓冀娜, 2016, 「中国における大学院への進学意識—学術学位と専門職学位の比較」, p3.

(4) 満都拉, 2013, 「中国の全日制専門職大学院のあり方について」, p291.

(5) 同上, p292.

(6) 韓冀娜, 2016, 「中国における大学院への進学意識—学術学位と専門職学位の比較」

(7) 「全国研究生学习体验调查」

(8) 国家統計局が公表した『中国統計年鑑』では、2013年時点で全国大学院またそれと同等な研究機関の在学者数は1,495,670人、そのうち、63%が学術学位、36%が専門職学位課程の学生であった

(9) 「全然当てはまらない」という選択肢の割合が甚だ少ないため、これからの分析には「かなり当てはまる」と「やや当てはまる」を「当てはまる」に、「あまり当てはまらない」と「全然当てはまらない」を「当ては

まらない」と統合する

- (10) 「当大学院に興味がある専攻がある」「研究職に就くため」「友達を作り、交流を広げる」「当大学院の知名度が高い」「両親の期待に応える」の5項目から構成されている。
- (11) 「修士学位を取得するため」「就職ができなかったため」「周囲の人が大学院に進学するため」「もう少し学生のままでいたかった」の4項目から構成されている
- (12) 韓冀娜, 2016, 「中国における大学院への進学意識—学位と専門職学位の比較」

参考文献

- 楠山研, 2002, 「学問学位と専門職学位」『文革後中国における大学院教育』第7章, pp. 72-84
- 黄梅英, 2008, 「中国における社会人大学院教育の構造」『尚絅学院大学紀要』第56集, pp. 161-174
- 韓冀娜, 2016, 「中国における大学院への進学意識—学位と専門職学位の比較」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』別冊23号-2, pp. 1-12
- 満都拉, 2013, 「中国の全日制専門職大学院のあり方について：大学生の進路選択の視点から」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第52巻, pp. 287-296
- 黄福壽, 李敏, 2009, 「中国における大学院教育—制度の成立, 量的拡大と多様化」『大学院教育の現状と課題』広島大学高等教育研究開発センター, pp. 81-100
- 陳曦, 2010, 「中国における専門職学位の動向」『名古屋高等教育研究』第10号, pp. 237-251
- 胡春宝, 2008, 「硕士研究生学业拖延分析」华东师范大学
- 王月明, 2016, 「研究生学业拖延相关问题」浙江理工大学
- 李纳娜, 2009, 「硕士研究生学业怠倦分析」华东师范大学
- 仲雪梅, 2011, 「我国研究生学习投入的影响因素分析」华东师范大学
- 何佳, 2015, 「硕士研究生学习投入现状的实证研究分析—以J大学为例」江西师范大学

WEB SITE

- 片山ゆき, 2015, 「2015年就職戦線, 史上最悪の就職難の懸念もベンチャー支援の広がりが(中国)」
http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20150713-00000023-zuonline-bus_all (最終閲覧日: 2016.09.16日)
- 人民網, 2013, 「史上最悪の就職難に直面する中国」
<http://j.people.com.cn/94475/206084/207471/> (最終閲覧日: 2016.09.16)
- 高学歴は就職に不利, 学歴を低く詐称する院生も—中国
<http://www.recordchina.co.jp/a68344.html> (最終閲覧日: 2016.10.31)